

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|---------------|------------|--|
| 事業所番号 | 1293000111 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 章佑会 | | |
| 事業所名 | やすらぎメゾン・尾車 | | |
| 所在地 | 千葉県君津市尾車648-2 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年5月9日 | 評価結果市町村受理日 | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな君津市尾車の里山に開所して7年目になるグループホームです。ご利用者がユニットを9人で1グループとし、それぞれ役割を持ち、協力しながら生活をしています。同敷地内に障害者施設、特別養護老人ホームがあり、内部研修や避難訓練などを合同で行ったり、それぞれのイベントに招待したりするなど、ご利用者、職員間の交流があったのですが、コロナ禍で、以前の様にはできなくなっています。また、地区の行事にご利用者と一緒に参加させていただいたり、自治会の方々とこちらの行事にご招待したりと、地域の方々との交流も今はできなくなっていますが、コロナ終息後には、ご利用者間、職員間、地域の方々との交流を復活させたいと思います。同法人の障害者施設の作業で君津市特産の花 カラー栽培があり、そこで贈り物に使用する包装用の紙作り、枕にする新聞折りなどを作業として請け負い、お礼としてカラーを毎年いただいで、ご家族にプレゼントしています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/ |
|----------|---|

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

食事では、美味しい物の提供だけでなく、食材を育てる・調理する過程での役割・メニューを選ぶ楽しみを重視している。また、“食”を通じてご利用者の潜在的な力を引き出しており、経営理念に沿った運営ができています。排泄に関しても、ご利用者を第一に考え、事業所一丸となって取り組んでいる。ご利用者のご家族に対しては、コロナ禍で面会制限がある中でも、ご利用者の日々の様子を伝えられるよう変化があった際には電話にてこまめにお伝えすることで、透明性を図り、かつ信頼関係も構築され、満足度に繋がっている。外出に関しても人込みを避けた場所への外出や、リスクヘッジを踏まえた企画、できる範囲でご利用者がリフレッシュできる取り組みをされている。退居された方に対してもお花を贈ったりなど、関係性を断ち切ることなく、関わりを大切にしている。障害者雇用にも力を入れており、ご利用者に限らず職員の働くステージを探し出す、普段コミュニケーションを図れない職員との間では個人面談を通じて、意思の疎通を図っている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|--------------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人ウェルビーイング | | |
| 所在地 | 千葉県木更津市大和2-12-10 ロフ壱番館2階 | | |
| 訪問調査日 | 令和 3年 5月 19日 | | |

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人としての理念については、入職時に説明している、また、目標は毎年、全職員に伝え、常に名札と一緒に携帯している | 法人理念は、事業所内に掲示され、さらに職員1人1人が名札と一緒にクレドカード化して法人理念と今年度目標を記載し、携帯している。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 管理者が自治会の会議に参加したり、職員、利用者が地区の行事に参加したり、こちらの行事に自治会の方を招待し、イベントの際に認知症についての勉強会を開くなどの交流があったが、コロナ禍でできなくなっている | コロナ禍の前は会との交流もあり、公民館でのイベントや認知症カフェ等に参加していたが、コロナ禍で自治会イベント等は軒並み中止となってしまい、交流の機会が減ってしまっている。 | これまでの交流が途絶えない様に関係性の維持に努めてほしい。回覧板などに施設の様子など現在発行している新聞を配布しても良い。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 事業所のイベントに地域の方をご招待したり、地域の行事にご利用者と参加するなど、ご利用者と触れ合う機会を作ったり、認知症についてのミニ講座を開催したりとの交流もコロナ禍でできなくなっている。定期的に広報誌を発行し、活動報告を行っている。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ禍で、開催できていないのが現状だが、このまま長引くようなら、何か対応策を考えたいと思っている。 | オンラインでの開催を検討したが、自治会の方やご家族、市役所の担当者の参加が難しい状況で断念し経緯がある。昨年、感染予防対策を万全に実施を試みたが、市役所の方からお断りされてしまった。 | コロナ禍である為、一切開催できていないが、この事態が継続することが予測できるので、事前に議題を送付して意見や提案を出してもらい、書面開催であっても双方向の会議となるような取り組みを期待したい。 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる | コロナ禍で運営推進会議を開催できていないのもあり、市町村担当との連携は検討中 | オンラインでの関わりも、市役所の担当者からは難しいとの反応があった。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 玄関の施錠に関しては、建物の周囲が山に囲まれて、迷って山に入ると危険な為、施錠している。また、帰宅願望があるご利用者の家族からも施錠してほしいと頼まれている。また、身体拘束に関しての勉強会を定期的に開いている。 | 施錠については、ご利用者・ご家族には必ず説明をしてご理解をいただいている。おもにご家族からは、施錠については、徘徊によるリスクを考えると安心との声をいただいている。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 管理者、職員とも高齢者虐待防止、身体拘束に関する研修に参加し、勉強会や虐待防止委員会を定期的に関き、施設全体として虐待防止に努めている | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | コロナ終息後には、また、同法人の障害者施設や特養などと合同研修などを開き、グループワークするなどの機会を作りたいと思う。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前にご家族に見学に来て頂き説明を行っている。契約時には、十分に説明し、不安や疑問、意向を聞き、納得を得ている。 | | |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 意見箱の設置があるが、利用されている方はいない。面会は、コロナ感染防止の為、禁止しているが、電話時やガラス越しの面会時等にご家族とコミュニケーションを図り、毎日の日々の中で一人一人の思いを汲み取るように努めている。 | 意見箱はご利用者・ご家族向けに設置している。今現在はコロナ禍により面会も減っていることから、ご家族には電話連絡の際にご要望等を聴き取るようにしている。コロナ禍での面会制限期間が延びていることに対し、いつになったらとのご要望の声が増えている。 | |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 職員からは、職員会議等で仕事場への要望や意見を提案してもらう。また、年度始めや末等で個人面接を行う時に個人の意見や提案をだしてもらう機会がある。 | 面談はユニット管理者が個別で対応して職員1人1人の聞き取りを行っている。日頃なかなか話ができない分、この面談を大事にしてお互いの意見交換や、方針や方向性の統一に向けた取り組みとしている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 新賃金制度について、代表者、管理者等の幹部職員で定期的に勉強会を行い、[人事評価十年功賃金]の新制度を試行する職員個々が目標をしっかりともち、それぞれの”頑張り”を公平に評価するようにしている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 上記の評価制度の充実を計り、職員一人一人を適正に評価するようにしている。事業所の内部研修を企画したり、外部研修にも極力、参加できるように努めているが、コロナ禍で外部研修参加に関しては、今年度は、オンライン研修のみ検討する予定。また、法人全体として、資格取得応援制度もある。 | 多様なキャリアを持つ職員それぞれの長所を活かしており、幅広い人材を育成出来ている。 | 外国籍の人材や障害者の雇用などの理解が深いため、その促進の為にICTの導入を期待したい。 |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ終息後には、以前、開催していた、認知症家族の会等地域の会に積極的に参加し、ネットワークの強化に努めたいと思う。また、勉強会、研修会にも参加するとともに、相互訪問等を活発に行い、サービスの向上に努めていきたいと思う。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|-----------------------------|-----|--|--|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | コロナ禍以前は、入居前にご家族やご本人に見学や体験にきて頂いたが、今現在は、なるべく、見学者とご利用者が接触しないように見学していただいている。当グループホームや介護保険等に関して、疑問に思うこと、不安な事やご要望などをお聞きして、安心していただけるように努めている。 | | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前の面談で、ご自宅の様子、これまでの生活歴、不安に思う事、疑問に思う事、要望等を十分に聞き取り、入居後も日常の様子をご家族に報告し、相談したりと信頼関係作りに努めている。 | | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | ご本人、ご家族の意向、思いを把握し、納得していただいて、安心してサービスを受けられるように努めている。 | | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 職員は、ご利用者から何かを教わったり、励ましあったりといった関係を築き、ご利用者と一緒に生活するという意識をもつようにしている。 | | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | コロナ禍の為、ガラス越しの面会時や電話等でご家族にご本人の様子を話し、一緒にご本人について話し合い、相談し合い、共に支えていく関係を築いている。 | 利用者家族と丁寧な関係性作りの効果が上がっており細やかなコミュニケーションが日頃から図られている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | コロナの為、ご本人の友人や知人などの面会は、ガラス越しで対応している。また、ご家族、知人や友人から電話が本人宛にくると、ご本人につないでいる。ハガキや手紙等もご家族に確認後、ご本人に渡し、関係が途切れないように支援に努めている。 | 都内に住んでいるご家族はオンラインでの面会を試みたが、ご利用者のご理解がうまくいかず、断念しこともあった。ここ最近では、ガラス越しでの面会を設け対応しており、ガラス越しだと会話がうまくいかないことから、ガラス越しに電話で会話するなどの工夫を取り入れている。 | | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | ご利用者同士の人間関係を把握し、トラブルにならないように職員が仲介し、また、ご利用者一人一人に合った役割を決め、お互いに支えあえるような支援に努めている。 | | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 契約終了後も手紙や電話、法人の作業で栽培しているお花を贈ったりというやりとりのあるご家族があり、相談や支援をできるだけするように努めている。 | 退所者が手をかけていた花畑などの収穫物を送り、お礼の手紙が届くなど利用者の人生を家族と共有出来ている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|--|---|----------------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | ご利用者との普段の関わりの中で、個人個人の思いや、ご希望を聞き、なるべくご本人のご希望に合う生活をしていただけるように支援している。 | ご利用者にとって話しやすいスタッフとのやりとりの中で要望を聞き出すようにしている。主に日常生活を共にしているスタッフが一番話しやすい様で、すぐに反映できる要望(食べたいおやつや内部イベント事)などは、極力応えるようにしている。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 事前の面談時にご本人、ご家族にお話を聞いたり、居宅のケアマネがついている場合には、ケアマネからもそれまでのサービス利用状況等の情報を得ている。 | 日常のケアの中でもサマリーなどにかかれてない情報を引き出しており利用者の生活歴の把握を維持できている。 | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | グループホームの一日のおおまかな日課は決まっているが、お声かけして、ご本人の気が乗らない場合は、ご本人の好きなように過ごしていただき、血圧や顔色、普段と違う行動など、小さな変化にも気づけるような支援をしている。また、何か変化があれば、記録や申し送りをするようにし、現状の把握に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | サービス担当者会議で、ご家族、ご本人、管理者と話し合い、ご家族、ご本人の要望、意向を伺い、介護計画を作成している。ご家族、ご本人へ説明し、理解していただいている。 | 直接集まったの会議を開くことは難しいため、基本的には電話を中心に、ご家族には情報を都度伝え、共に理解し合える環境づくりを行っている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | その日の出来事を個人のケース記録に、具体的に支援の内容と様子を記入している。日々気づいた事があれば、職員が申し送りノートに記入し、必ず、業務前に読み、サインをする事になっている。会議や打ち合わせ等で、情報の共有を行っている。 | 日々の気づきを新たなサービスへとつなげる事が出来ており、利用者の活動範囲の可能性を広げる事ができている。 | 記録方法について、書式の採用やICT化を期待したい。 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 同法人、同敷地内に特養があり、ご本人の介護度が進み、グループホームでは対応が難しくなった場合などは、特養のご利用も視野にいれて検討できる。また、同敷地内の障害者施設や特養の看護師や栄養士などの支援も得られるような体制になっている。 | 同法人から異なるキャリア人材の登用を積極的に行っており高齢者介護の知識以外にも連携が図れている。 | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | コロナに伴い地域のイベントや、公民館での認知症カフェ等中止になり、敷地内の各部署との交流も行えていない。コロナが終息し次第、以前のように交流を持ちたいと考えている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 外部評価 | | |
|----------------------------------|------|---|--|--|--|
| | | | 自己評価 実践状況 | 実践状況 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 入居時にご利用者のカルテを協力医に作っていただき、月3回の往診と随時通院をしている。協力医とは常にご利用者の身体的情報を共有している為、速やかな医療を受けることができる。救急搬送の際も病状によっては密に打ち合わせをしている為、搬送の際連絡をいれ協力医が受け入れてくれる場合もある。 | 緊急搬送の事例はあるが、医療機関とあらかじめの状態把握が出来ている場合には、事前に医療機関との連携をとっている。緊急性がある場合には電話にてご家族へ連絡、緊急性がない場合は、事後報告のときもある。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 同じ敷地内の施設の看護師に相談や処置を受けている。コロナに伴い日々のご利用者・職員の熱発者の情報を各部署で共有し、感染症対策委員を設け定期的に会議を行っている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時にご利用者のサマリーを持参し病院関係者と情報を共有している。入院中は電話で様子を伺い連携をとっている。骨折で入院の際は、長期入院により認知症状がひどくなる恐れがある為早期に退院できるように病院と調整している。 | | |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 契約時に本人・家族に説明している。重度化した場合は同じ敷地内の特養への入所や医療機関への入院等、主治医・家族・特養職員・GH職員で話し合い方針を決めていく。延命処置については同意書を制作し、家族の意向に基づいて対応している。協力医にも同じ同意書をあらかじめ提出している。 | ご利用者の状態に合わせて段階的に情報をご家族へ伝え、話し合いや電話でのやりとりで都度の方向性や、今後考えられることをなるべく具体的に伝え、急な対応にならないようにしている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 緊急時のマニュアルがあり、対応できる体制にある。また緊急時の対応をした場合、経験を次に活かせるよう報告書の製作や口頭での申し送り、勉強会等を開いている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 法人合同訓練、土砂災害や夜間想定訓練を行っている。法人全体での水害に備えた外構工事、GH回りに水除の為のブロックを積む等終わらせている。台風等で経験した事を活かし備蓄品を更に補充している。 | 地域の特性から、災害時には近隣住民のかたが、施設へ避難してこられる可能性が高いと認識している。そのため、地域の避難場所になりえるように災害訓練などに取り組んでいる。 | 災害時は地域の基幹施設になりうる為、地域住民との合同避難訓練や災害を想定した連絡系統の構築に期待したい。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 | ご利用者一人一人の今まで送られてきた人生に敬意を払い、誇りを大切に職員は言葉づかいや態度に気を付けている。ご利用者によっては地域の言葉を使った方が良い関係を築ける場合もあるので、その人にあつた対応をしている。 | ご利用者によっての地域の言葉を使ったコミュニケーションは、施設全体の共有事項として統一し、より良い関係性の構築のためのものとして取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 認知症状や身体の具合(歩行困難等)によってユニットを分けることで、より一人一人の希望を聞くことができています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 毎朝ミーティングをひらき、1日の活動をご利用者と職員とで話し合い決めている。ミーティングに参加できない方や上手く話せない方は、都度都度声掛けをしている。できる限り希望にそえるよう努力している。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 服はご自分で選ぶことのできない方は職員と一緒に選んでいる。化粧やマニキュアをするのが好きな方は職員がしてさしあげ、喜んでいただいている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 朝食はパンかご飯、お粥を選んでいただき飲み物も一人一人希望の物を提供している。畑と一緒に収穫した野菜や敷地内で採れる竹の子等、新鮮かつ季節を感じることができる。魚も地魚を提供している為旬の物で会話もはずむ。お好み焼きやホットケーキ等は随時一緒に作っている。今年は正月の煮豆を作ることができた。食器洗い等は順番に職員と行い、役に立てたことで自信をつけている。 | 一番力を入れてサービス提供をしている。一方的な喜びを与えるだけでなく、ご利用者に役割や生きがいの提供を意識している。個々によって好き嫌いがあるので難しい面もあるが、かえって苦手と思っているご利用者にはスタッフと1対1の対応を取り入れることで、潜在的な能力の発掘ができてよくなったケースもあった。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 水分・食事の摂取量は記録表でチェックし、少ない場合は飲み物であれば温度や種類、環境等を変え、食事の場合はおにぎりしたり、時間をずらしたりし提供している。毎月体重測定をし調理員と相談しながら栄養バランスを考えている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 前年までは朝夕の2回だったが、コロナのこともあり、毎食後の口腔ケアを徹底している。各ユニットにマウスウォッシュを置き、うがいの際に使用している。 | | |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | ご利用者の排せつ状況の変化に速やかに対応し個々に合わせた支援を行っている。日中のリハビリパンツやパッドを取ることができ、布の下着のみで過ごせる方が増えた。トイレ誘導も声掛けに工夫し自然な流れで行かれている。 | 汚れたものをずっとつけていることによる感染リスクもあり、スタッフの理解を進めると共に一番大事なことは”ご利用者にとっての一番良いことは何か”ということのポイントとして、職員としっかり話し合いをまめにし、個々に都度取り組んでいる。 | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 毎日の発酵食品・乳酸飲料は続けている。毎朝の体操1時間、悪天候でなければ毎日希望者は散歩に行き体を動かしている。排便表をチェックし便秘が続く場合は医師と相談し便秘薬を処方していただいている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている | なるべく家庭と同じ環境に近づけるため午前の入浴は避けている。一人ずつゆっくり入浴できるよう時間制限はしていない。最低週2回、希望があればその都度対応している。冬場の乾燥を防ぐための保湿入浴剤、ボディークリームは続けている。 | 時間制限がない中で、ご利用者に満足してもらえるように1対1の対応をすることで、コミュニケーションもよくなり、心身のリフレッシュを図りながら長湯になりすぎない配慮ができています。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 自由に休息できるようにしているが、日中寝すぎで昼夜逆転しないように、日中活動や日光を浴びる等していただく。できるだけ睡眠薬を使用しないでリラックスして眠れるよう支援している。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 薬の情報が確認できるよう一人一人のファイルを作っている。新しく処方された薬は副作用等、注意事項を職員に周知している。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 家で畑仕事をされていた方には畑仕事を、掃除好きの方は館内消毒の手伝い等それぞれできることを見つけて提供している。ウッドデッキでのいちご狩りや、好きなものを注文して食べるテイクアウト企画等楽しみを作っている。カラオケは随時行っている。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | コロナの為、外食や買い物、レジャー施設等の外出はできていないが、少数数で、人のあまりいない公園を見つけドライブに出かけている。毎日の散歩では敷地内で飼っているヤギにエサをあげる楽しみがある。 | 外出が出来ない中でも、可能な限りドライブや密にならない様な場所を見つけては行ってみたり、事業所内のウッドデッキでの外イベントの開催など、ご利用者の精神的な状態に配慮しながら、都度の対応を行い精神的なケアを行っている。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | お小遣いは預かっているが自己管理できない為、欲しいものがあるときは今はコロナの為職員が代わりに購入している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | | 外部評価 | |
|----|------|--|---|--|-------------------|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | ご希望がある時はかけていただいている。ご家族から事務の用でかかってきたときも、せっかくなのでご利用者に繋いでいる。手紙もくることがあるので返事用のレターセットをご利用者に渡している。 | | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | トイレは気持ちよく使っていただけるよう清潔を保ち臭いにも気を配っている。廊下には外出時や企画で撮った写真等を飾り、玄関や洗面所、生活室には散歩時に摘んだ花や、職員が持ってきた季節の花がいつも飾ってある。加湿器を増やし保湿度にも気を配っている。 | 感染予防対策についてはコロナ禍の前から取り組んでいたこともあり、お客様の混乱はなかった。ただ、マスクの着用についてコミュニケーションへの障害になったりしたこともあったが、ここ最近はこの環境にも適応してくださり、落ち着いた環境、空間が維持できている。 | | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 独りで過ごしたい方、仲間とお話しされている方、思い思いに過ごせるようトラブルにならないように見守り支援している。 | | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ダンスやベッドは備え付けになっているが、使用については家族と本人で決めている。なるべく落ち着いた環境で過ごせるようにコタツやテレビ、使い慣れたイス等自由に置いていただいている。 | 使い慣れたもの(椅子など)を自由に持ち込めるが、事故リスク等の検討もしっかり行い、ご利用者の身体状況に合わせた自立を促す支援や環境を整備するようにしている。 | | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 生活室ではご利用者それぞれの歩行状態や動線を考えてテーブルやイスを配置している。居室は夜間室内での転倒を防ぐため、ベッド、ダンスの位置を工夫し、ふらついてもつかまれるように配置している。シルバーカーも使用し自立に向けて支援している。 | | | |